

産業別四半期見通し調査結果 (2016年4-6月期見通し)

＜製造業は一部で弱さが残る一方、観光業はイベント効果に期待＞

■ 県内産業天気図

＜調査の変更点＞

※今回の調査から、「飲料製造(ノンアルコール)」と「清酒・ワイン」を「飲料製造」に、「味噌」と「その他食料品製造」を「食料品製造」にそれぞれ統合したため、全体を19業種から17業種に変更しました。

◇ 2016年1-3月期の現況

➤ 全17業種中、「薄日(順調)」が1業種、「曇り(普通)」が13業種、「小雨(低調)」が3業種となった。

◇ 2016年4-6月期の見通し

➤ 全17業種中、「薄日(順調)」が2業種、「曇り(普通)」が12業種、「小雨(低調)」が3業種となり、天気図記号が変わる業種は3業種となった。

天気図記号	2015年10-12月期 (19業種)	2016年1-3月期 現況(17業種)	4-6月期見通し (17業種)
 晴れ(好調)	0 業種	0 業種	0 業種
 薄日(順調)	2 業種	1 業種	2 業種
 曇り(普通)	15 業種	13 業種	12 業種
 小雨(低調)	2 業種	3 業種	3 業種
 雨(不調)	0 業種	0 業種	0 業種

■ 4-6月期見通しのポイント

- 製造業のうち「工作機械」や「産業用機器」など機械関連の業種では、国内および北米等の先進国向けは底堅い推移が見込まれることから、「電子部品・デバイス」を除き「曇り(普通)」の見通しとなっている。ただ、生産設備の過剰感が残る中国をはじめ新興国向けが弱含むとみられ、不透明感は続くと予想される。
- 行楽シーズンを迎える「旅客」と「ホテル・旅館」は、5月の大型連休の日並びが良いことに加え、「真田丸」や御柱祭による集客効果も見込めることから、ともに「薄日(順調)」を見込む。

照 会 先

一般財団法人 長野経済研究所
調査部(担当: 条井、庄田)

TEL 026-224-0501



<産業別天気図一覧(17業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内対象の企業経営者が業界の景気をどうみているかをアンケート調査とヒアリング調査を基に、当研究所が判断した。

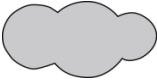
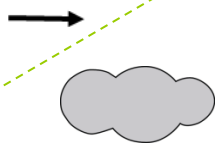
■調査期間：2016年3月中旬～16年4月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業17業種の136社

業 種	前期 (10-12月期)	今期 (1-3月期)	来期 (4-6月期)
工 作 機 械			→
半 導 体 製 造 装 置			↗
産 業 用 機 器			→
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス			→
自 動 車 部 品			→
光 学 ・ 計 器			↗
プ ラ ス チ ッ ク 製 品			→
※ 飲 料 製 造	—		
※ (飲 料 製 造 (ノ ン ア ル コ ー ル))			→
※ (清 酒 ・ ワ イ ン)			
※ 食 料 品 製 造	—		
※ (味 噌)			↗
※ (そ の 他 食 料 品 製 造)			
機 械 器 具 卸			→
大 型 小 売			→
自 動 車 販 売			→
公 共 工 事			→
民 間 工 事			↗
旅 客			↗
貨 物			↘
ホ テ ル ・ 旅 館			↗


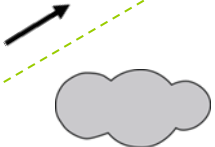
当研究所の注目業種

4-6月期見通しの注目ポイント	
<p>旅客</p> 	<ul style="list-style-type: none">▶ 行楽シーズンを迎え、高速バスや修学旅行の貸切バスの予約は概ね順調の見通し。▶ 今年の5月の大型連休は日並びが良く、旅客需要が高まるとみられる。御柱祭と「真田丸」の効果については、エリア内ではシャトルバスや貸切・高速バス、鉄道の需要を押し上げると期待される。▶ 一方、ドライバー不足が続いていることや、4月に開業した新宿駅交通ターミナルの「バスタ新宿」のダイヤが過密状態にあるためバスの増便が難しいことから、収益機会の逸失が懸念される。
<p>ホテル・旅館</p> 	<ul style="list-style-type: none">▶ 都市部のホテルでは、ビジネス客による宿泊が堅調に推移しており、引き続きこの水準を維持するものとみられる。▶ 「旅客」と同様、観光客の宿泊利用は、5月の大型連休の日並びの良さから好調に推移するものとみられる。行楽シーズンに入ることに加え、「真田丸」の放映などの後押しもあり、個人客・団体客ともに利用増加が見込まれる。

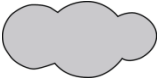
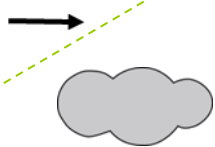
工作機械 : アジア向けは低調も全体では底堅い動きが続く

<p>現況</p>	<p>国内は企業の設備投資の動きに一定の底堅さがみられ、自動車関連向けを中心に機械需要は安定して推移した。海外は、減速感が一部出ているものの米国の自動車産業が堅調で、隣接するメキシコを含めた北米地域向けの機械需要がけん引役となった。欧州向けも地域により差はあるが、全体としては安定的に推移した。一方、アジア地域は、日系自動車メーカーの進出が相次ぐインドは伸びているものの、中国や東南アジアにおける設備投資の動きが鈍く、機械需要は低調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、政府の新たな投資促進策の効果もあり、自動車関連向けを中心に機械需要は底堅く推移するとみられる。海外は、引き続き北米地域向けの機械需要がけん引役となり、欧州向けも全体として安定した推移が見込まれる。一方、中国の生産設備は過剰感が残っており、厳しい受注環境が続く見通し。東南アジアも同様に、主要市場であるタイやインドネシアなどの自動車生産が落ち込んでおり、回復の足取りは鈍いとみられる。インドは引き続き成長市場として期待される。</p>
	


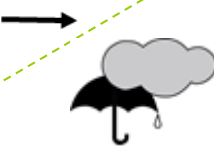
半導体製造装置 : 半導体の在庫調整が進み、海外受注環境は上向く見込み

<p>現況</p>	<p>国内は、スマートフォン向けや車載用電子制御装置向けなどの半導体開発・製造において、材料の加工や表面処理等に関連する装置に動きがみられた。一方、最終的な組み立てや検査などに用いられる装置は設備の充足感から弱い動きとなった。海外は、高度に薄型化・小型化された半導体製品の製造に用いられる一部の高付加価値装置などで引き合いがみられ、収益を下支えした。しかし、総じては、新興国の景気減速の影響などから半導体の在庫調整の動きが強く、装置需要は低調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、半導体製品の組み立てなど最終工程向けの装置を中心に充足感があり、需要動向は不透明な状況が続く。一方、海外は、昨秋から続いた半導体の在庫調整が進み、装置の受注環境は上向くと見込まれる。また、高精度で付加価値の高い半導体製造装置等に対しては引き続き一定の需要がみられ、収益確保に寄与する見通し。加えて、IoT（Internet of Things：モノのインターネット）関連の半導体製造に対応する新たな装置需要も見込まれ、業界の好材料として期待される。</p>
	


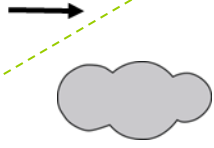
産業用機器 : 国内設備需要は底堅さあるも、新興国向けは弱い動きが続く

<p>現況</p>	<p>車載関連機器は、国内はハイブリッド車向けなどで需要増加がみられたものの、軽自動車向けには弱い動きが続いた。海外は新車需要が堅調な北米向けの受注が増える一方、新興国向けは完成車需要の低迷から受注が伸び悩んだ。産業用ロボットなどのFA機器や工作機械向けは、国内は生産設備の更新や新設が進み需要は堅調だったが、海外は中国向けなどを中心に低調な推移となった。水冷装置や空調機器などは省エネ効果へのニーズが高く、受注は安定した。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は新設需要が低調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>車載関連機器は、国内はハイブリッド車向けなどで需要が安定するも、軽自動車向けは弱含む見通し。海外は北米向けで堅調な推移を見込むが、新興国向けは引き続き受注の低迷が予想される。産業用ロボットなどのFA機器や工作機械向け及び水冷装置は、国内は生産ライン等の設備投資需要が底堅く安定推移が見込まれる一方、海外は中国などで機械需要が伸び悩み、弱い動きが続く見通し。住設機器は、一定の更新需要はあるものの、新設需要が低調に推移するとみられる。</p>
	


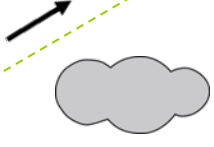
電子部品・デバイス : スマートフォン向け新製品の受注増には時間要す

<p>現 況</p>	<p>自動車向けは、完成車需要が北米を中心に安定していたのに加え、衝突回避や燃費向上のためのシステムのレベルアップにより1台当たりの電子部品搭載量が増加しており、県内部品メーカーの受注も堅調に推移した。一方、スマートフォン向けは、年度末に向けた完成品メーカーの在庫調整に加え、一部完成品メーカーが減産を行った影響もあり、受注の減少が続いた。テレビなど家電向けは、納入先である日系完成品メーカーの不振もあり低調に推移した。パソコン向けは、事業者向け個人向けともに低調に推移した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>自動車向けは、北米を中心とする安定した完成車需要と電子部品搭載量の増加から堅調を維持する。スマートフォン向けは、一部完成品メーカーが減産を継続するほか、次期モデルの受注が本格化するにはしばらく時間を要する見込み。家電向けは、新興国経済の変調の影響もあり、低調に推移する見込み。パソコン向けも、市況が上向くような材料が乏しく弱い動きで推移するものとみられる。収益面は、全体として海外向けのウエイトが高いため、為替が更に円高に振れると収益悪化が進む懸念がある。</p>
	


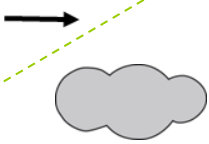
自動車部品 : 国内向けは弱含むも北米向けが市場をけん引

<p>現 況</p>	<p>国内は、モデルチェンジによる需要拡大が一部にみられたが、売れ筋車種以外の需要が低調な推移となったほか、軽自動車向けの受注も伸び悩んだ。15年度は新車販売台数が4年ぶりに500万台を割り込むなど販売が落ち込み、年度末にかけても部品需要は弱含んだ。海外は、北米向けは引き続き堅調に推移し、市場をけん引した。中国向けは、自動車取得税の減税策などが需要を下支えし、一部企業では底堅い受注がみられた。東南アジア向けは、インドネシア、タイの需要が回復せず、低調に推移した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>国内は、引き続きモデルチェンジ需要が一部にみられるものの、ほかに受注を下支えする新型車の動きは少なく、効果は限定的となる見通し。また、軽自動車向けは引き続き弱い動きが見込まれるなど、国内全体は弱含むとみられる。海外は、北米向けは堅調な需要を維持する見通し。中国向けは、景気減速の影響が懸念されるが、減税策の効果が続き受注は底堅く推移するとみられる。東南アジア向けは、引き続き低調な推移が見込まれる。全体として北米向けが市場をけん引するとみられるが、円高基調にある為替動向が懸念される。</p>
	


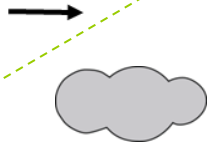
光学・計器 : 通信関連など産業用を中心に堅調を維持する

<p>現 況</p>	<p>光学機器関連のうち、産業用レンズは、通信回線装置向けが海外を中心に好調であった。半導体製造装置向けは、中国経済の減速の影響からやや落ち込みがみられた。プロジェクターは、大型施設等で高精細な画質に対応した製品への入れ替えにより販売は堅調に推移した。自動車向けは、好調な北米を中心に海外向けが底堅く推移した。スマートフォン向けは納入先ごとに好不調はあるものの、総じては前年並みを維持した。計器関連は、中国向け建機及び一般計器品の需要が減少、国内需要もやや伸び悩みとなった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>光学機器関連のうち、産業用レンズは、事業者向け高付加価値プロジェクターや通信回線装置向けが堅調に推移する見通し。半導体製造装置向けは、設備投資への慎重姿勢もみられるが、高精度な組立装置などに一定の需要が見込める。自動車向けは、北米を中心に完成車の好調な販売が続き、受注は安定的に推移する。スマートフォン向けは、一部で新製品向けの受注が立ち上がっており受注の増加が期待される。計器関連は、中国の産業用機械向けの需要が減少していることから、やや弱含みで推移するとみられる。</p>
	


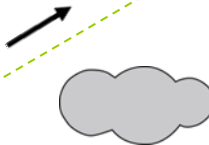
プラスチック製品 : スマートフォン向けで生産増が期待されるが、総じては横ばい

<p>現 況</p>	<p>プラスチック製品は、内外需ともほぼ横ばいで推移した。自動車関連は、北米など海外向けの完成車需要が堅調ながら、国内向けが落ち込んでおり、総じて低調だった。複写機のトナーケースなどOA・情報関連は、底堅い動きとなった。スマートフォン向けは、完成品需要の服感がみられる中、市場をけん引する機種がなくさえない展開となった。一方、容器類は、ペットボトルが堅調さを維持したほか、化粧品向けが外国人観光客の旺盛な需要を背景に好調に推移した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>自動車関連では、新型車向けの部品立ち上げがプラス要因としてあるものの、全体を押し上げるまでには至らず低調な推移が見込まれる。複写機向けなどのOA・情報関連は、安定的な需要に支えられ堅調に推移するとみられる。容器類は、化粧品向けが高水準を維持するとみられるが、外国人観光客の需要に服感もあり、生産水準はやや低下する見通し。一方、スマートフォン向けは、一部で新機種に向けた部品生産が増加する見込みであり、生産水準の引き上げが期待される。</p>
	


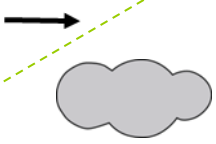
飲料製造 : 需要堅調もコスト上昇分を転嫁できず、厳しい収益環境が続く

<p>現 況</p>	<p>清涼飲料は、暖冬の影響でホット飲料の動きが鈍かったものの、全体では例年並みの水準となった。そのうち、果実・野菜飲料では、加工用に出回るリンゴが増えたことで仕入価格が下落し、収益面が改善する企業もみられた。清酒は、純米酒などの特定名称酒が堅調だったほか、地域の祭事需要に伴い普通酒も販売量が伸びた。ワインは、国産原料を用いた日本ワインの需要が増加したが、ぶどうの供給不足から前年並みの販売量にとどまった。業界全体では、物流コストや資材価格などが高止まりしており、これらが収益圧迫の要因となった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>清涼飲料は安定した需要が見込まれ、全体の販売量は例年並みの水準となる見込み。ただ、暖冬の影響で果樹の開花時期が早まったことで、遅霜などによる作柄への影響が懸念される。清酒は、生酒など季節商品の販売に加え、祭事や観光による需要を取り込み、前年並みの販売量を確保する見通し。ワインは、需要増加の一方で在庫が品薄になる業者もあり、大幅な販売量の増加は困難な状況が続く。業界全体では、各種コストの上昇に対して価格転嫁の動きは一部の製品等にとどまり、厳しい収益環境が続く見通し。</p>
	


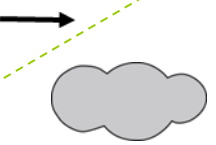
食料品製造 : 原材料価格の低下により収益環境が改善する見通し

<p>現 況</p>	<p>味噌は、大手を中心に即席味噌や減塩・無添加など健康に配慮した商品の販売が増加する一方、中小はやや低調に推移した。大豆関連商品、加工肉、コンビニ向け総菜は、無添加等の安全志向や塩分を抑えるなど健康志向の高まりにより、関連商品の販売が増加した。製粉は、玄そば価格の高止まりが続いたものの、需要が堅調に推移したことや価格転嫁を進めたことなどから収益環境は改善した。乾燥食品は、シリアル向けドライフルーツなどの需要が拡大しており前年を上回る販売量を確保した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>味噌は、生味噌の需要減少が続くが、健康に配慮した減塩・無添加及び麹関連商品の販売は堅調を維持する見通し。大豆関連商品、加工肉は、安全や健康を訴求した商品などが堅調な売れ行きとなる見込み。コンビニ向け総菜は、行楽シーズンに入り需要の拡大が期待される。製粉は、価格転嫁の効果から収益環境は改善が続くとみられる。全体として、円高基調の為替相場にともなう輸入原材料価格の低下に加え、エネルギーコストの下落などにより収益環境が改善する見通し。</p>
	


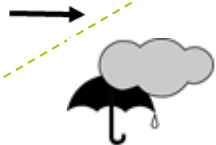
機械器具卸 : 設備投資に慎重さがみられる中、投資促進策に期待

<p>現 況</p>	<p>中国の景気減速の影響など先行きへの不透明感が増したことや、スマートフォン関連の減産の影響などから設備投資に慎重な企業もみられ、機械関連の需要は弱含んだ。ただ、人材不足を補うための自動化を進める動きは続いており、受注状況は前年に近い水準を保った。</p>
	<p>2月から政府の投資促進策の募集が始まり、それに関する商談も出ている。工具類など消耗品の受注は、自動車関連メーカーを中心に安定していた。一方、配線機器や分電盤などの電設資材は、公共施設に関する工事件数も減少しており伸び悩んだ。</p>
<p>見 通 し</p>	<p>先行きへの不透明感から設備投資に慎重な企業もみられるものの、政府の投資促進策による効果が見込まれることから、機械関連の受注は底堅く推移するとみられる。今後も新たな投資促進策が予定されており、それをきっかけとした設備投資の広がりが期待される。工具類</p>
	<p>などの消耗品は、引き続き自動車関連メーカーを中心に安定した受注が見込まれる。電設資材は、民間住宅向けは消費増税前の駆け込み需要に期待するものの、取扱量が望める大型の公共施設に関する案件は競合も多く、厳しい受注環境が続く見通し。</p>


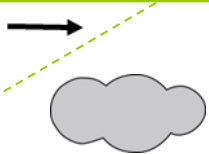
大型小売 : 競争激化による収益面の悪化が懸念される

<p>現 況</p>	<p>百貨店は、物産展など食料品催事の売り上げが伸びたほか、雑貨も堅調に推移した。一方、暖冬の影響などから衣料品は低調だった。スーパーは、野菜など生鮮食品の相場が全般に高く売り上げに寄与したほか、節分など歳時に関連する総菜も好調だった。一方、気温が高めに推移したことから、鍋物商材や防寒用品は振るわなかった。また、競合店間の価格競争などから、収益面は厳しさが続いた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>百貨店は、大型連休などを中心に家族向けの催事を充実させるとみられ、来店客数の増加が期待される。雑貨は堅調な推移が見込まれるものの、不振が続く衣料品の回復には時間がかかる見通し。スーパーは、食料品を中心に底堅く推移することが予想され、行楽関連商品などの売上増加も見込まれる。一方、新規出店が引き続き予定されていることから、競合店間の競争は激しさを増すとみられ、収益面の悪化が懸念される。</p>
	


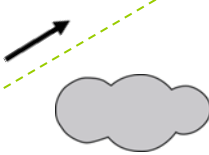
自動車販売 : 買替需要の一服感から弱含んで推移

<p>現 況</p>	<p>普通車は、人気車種の新型車や低燃費車の販売が伸びたものの、小型車の販売が落ち込み、全体の販売台数は前年を下回った。軽自動車は、小型車との競合や車両価格の値上げによる消費者離れが響き、低調に推移した。中古車は、小型車、軽自動車ともに伸び悩んだが、低燃費車がけん引し、前年並みの売り上げを確保した。輸入車は、比較的低価格なエントリー車種を中心に売り上げが伸びたが、高級車種が伸び悩み、全体では前年並みの販売台数となった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>普通車は、新型車の発売、モデルチェンジの予定が少ないことや、買替需要の一服感から前年をやや下回って推移する見通し。軽自動車は、小型車との競合や車両価格の値上げによる消費者離れが続き、販売台数は低調に推移する見込み。中古車については、低価格車・低燃費車を中心に前年並みの販売台数が見込まれる。輸入車は、新型車の発売や大きなモデルチェンジはないものの、エントリー車種の販売促進活動の強化により、前年並みで推移するとみられる。</p>
	


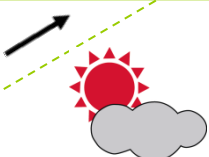
公共工事 : 大型工事が見込まれるも、人手不足解消が課題

<p>現 況</p>	<p>例年、年度末は工事発注が増加する傾向にあるが、施工時期の前倒しを図った今年度（平成27年度）は前半に工事が集中したため、1-3月期は国、県、市町村いずれの発注者においても大型の工事は少なく、例年を下回る件数・工事量となった。ただ、手持ちの工事量は依然豊富な水準を保った。資材価格や労務費は前期と変わらず高値圏にあり、収益環境は厳しいものとなった。現場代理人や型枠工などの人手不足は続いている。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>国や県においては前年並みの予算が組まれており、工事量は前年同期に近い水準となることが予想される。国では、道路整備を中心とした土木工事などが見込まれ、県では、新県立大学三輪キャンパスなど大型の建築工事が予定されている。市町村では、庁舎の新築や学校施設の改築等が予定されており、工事量は底堅いとみられる。一方で、現場代理人や型枠工といった一部職種の人手不足の状況は解消せず、工期の遅れや入札の見送り、労務費の上昇等が懸念される。</p>
	


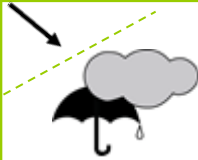
民間工事 : 新設住宅は良好な金利環境に加え、消費増税に向けた動きも

<p>現 況</p>	<p>民間企業の建設投資は、店舗の新設や改修の需要があった小売りなど、非製造業からの受注が堅調に推移したものの、製造業は慎重姿勢が続き、全体としては前期と同程度であった。新設住宅については、大型の分譲マンション建設があったものの、消費増税による駆け込み需要の動きはあまりみられなかった。相続税の節税策として賃貸住宅の建設需要は依然高く、受注量は前期に比べ増加した。資材価格は、物によって価格の上下があったものの、全体的には前期と同程度であった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>民間企業の建設投資は、小売りや介護福祉といった業界の受注増が予想されるものの、全体的に慎重な姿勢は続くとみられる。新設住宅については、借り入れしやすい良好な金利環境に加え、消費増税による駆け込み需要の動きも出て、増加に向かうと考えられる。相続税の節税策として賃貸住宅の需要は今後も続くとみられ、着工増の見通し。一方で、職人や技術者等の人手不足、労務費や木材など資材価格の高騰が懸念される。</p>
	


旅客 : 行楽シーズンに加え、御柱祭、真田丸の効果을期待する

<p>現 況</p>	<p>記録的な暖冬・雪不足に加え、軽井沢バス事故の影響により、一部でスキー客の貸切、高速バス利用を控える動きがみられた。一方、開業後初の冬を迎えた北陸新幹線の利用は好調で、特に飯山駅からの周辺スキー場へのバスの利用は盛り上がった。また、外国人観光客や「真田丸」効果により、高速バス利用の増加もみられ、総じては、後半にかけて巻き返した。タクシーは、地元客、観光客ともに利用低迷が続いている。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>行楽シーズンを迎え、高速バスや修学旅行の貸切バスの予約は概ね順調の見通し。大型連休は日並びが良く、観光による旅客需要の高まりを見込む。御柱祭と「真田丸」の観光効果については、エリア内ではシャトルバスや貸切・高速バス、鉄道の需要を押し上げると期待されている。一方で、ドライバー不足や過密ダイヤ状態にある「バスタ新宿」のバス増便の難しさから、収益機会の逸失が懸念される。タクシーは、イベント等による利用増加は一時的とみられ、利用控えの傾向は続く見通し。</p>
	

貨物 : 貨物量はやや減少、ドライバー不足による収益悪化も懸念

<p>現 況</p>	<p>全体の貨物量は、やや低調に推移した。自動車部品は、低燃費車向けが一部で好調であったが軽自動車の販売不振が続き、年度末にかけても荷動きは伸び悩んだ。機械・資材関連は、</p>
	<p>工作機械、電設資材は堅調に推移したが、建設機械、建設資材はやや低調であった。生活関連は、食品・飲料は暖冬の影響から堅調に推移し、日用雑貨も例年並みとなった。ドライバーの1日の拘束時間と運行時間の規制強化により、長距離輸送の減少や高速利用の増加といった影響が出ている。貨物量はやや減少するも、燃料価格の低下が収益を下支えした。</p>
<p>見 通 し</p>	<p>全体の貨物量は、やや減少する見通し。自動車部品は、軽自動車の販売不振の長期化などにより、前期を下回る荷動きとみられる。機械・資材関連は、工作機械、電設資材など一部で堅調な荷動きが見込まれるが、建設機械、建設資材はやや低調となる見通し。生活関連は、食品・飲料、日用雑貨は前年並みとなる見通し。ドライバーの不足や規制強化に対応するには適正運賃の收受が必要となるが、荷主との価格交渉は難航が予想される。燃料価格は安値圏が続くとみられ、収益を下支えする見通し。</p>
	

ホテル・旅館 : 行楽シーズンに加え、御柱祭や真田丸の効果により利用増加を見込む

<p>現 況</p>	<p>ビジネス客による宿泊利用は都市部を中心に堅調に推移した。観光客による宿泊利用は都市部・観光地とも順調に推移した。「真田丸」の放映開始により、上田地域及び関係する周辺地域では、個人客を中心に利用が増えている。スキー場周辺のホテルや旅館は書き入れ時であったが、暖冬による雪不足の影響から国内スキー客による宿泊利用は伸び悩んだ。ただ、オーストラリアやアジア諸国を中心に外国人観光客による利用は好調であり、稼働率が下支えされた企業もみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>都市部のホテルでは、ビジネス客による宿泊利用は引き続き堅調に推移する見通し。観光客による宿泊利用は、大型連休の日並びの良さから都市部・観光地とも好調に推移するとみられる。「真田丸」の放映や御柱祭の開催により、関係地域を中心として個人客・団体客ともに利用の伸びが見込まれる。需要期を迎えるブライダルは前年並みを見込む。安定した需要を背景に、需給に応じた価格設定による収益環境の向上が期待される。</p>
